

公益社団法人日本ホッケー協会スポーツ少年団部会は、公益財団法人日本ユニセフ協会が提唱する「子どもの権利とスポーツの原則」に賛同し、子どもたちの健康で元気な未来を見つめ、ホッケー活動を通して、「子どもの権利とスポーツの原則」を守る活動を実践していきます。

○ 子どもの発育と発達に合わせた指導を行います。

(実践例 1) 子どもの成長は、子どもによって成長のスピードが違います。自分の成長に気づくタイミングもあります。その子どもの発育と発達のバランスに沿った指導を心がけます。

(実践例 2) 子どもたちの年齢差や技術差があっても、競い合って楽しめるような練習メニューを組んで、子どもたちの練習やホッケーに対するモチベーションを高めます。

(実践例 3) ウォーミングアップの時から、子どもたちと一緒に体を動かします。特に小さい子や運動の苦手な子と一緒に体を動かし、気おくれすることなく、気持ちよく練習に取り組めるよう努めます。ウォーミングアップメニューも工夫し、楽しく練習する雰囲気を作ります。

(実践例 4) 試合の勝敗より、がんばった過程が大切です。仲間を応援する心も大切です。子どもの将来を見据えた指導を行います。

(実践例 5) 一人ひとりのがんばりを認め、褒めていきます。試合に勝ったときは子どもたちと一緒に喜び、負けたときは子どもたちと一緒に振り返り、選手と共に成長していきます。指導者が子どもたちと一緒に振り返ることで、課題把握や次への目標設定ができ、負けは失敗ではなく、勝つためのステップととらえます。

(実践例 6) ゆっくり成長

子どもには成長時期の個人差があり、できなくても待ってあげるだけの寛容さも必要となります。 教本 P 1 4

(実践例 7) 個性を伸ばす

(実践例 8) 違うスポーツをする。体の各部分をバランスよく成長させることが大切です。

○ 子どもたちに元気の出る声かけをします。

(実践例 1) 試合中の選手交代の時「〇〇さん交代」と呼べない選手がいます。自分
は呼びたいのですが、人を呼ぶタイミングが分からないのです。そんな時、
コーチは交代で入る選手の横に行き、片足の膝を地面に下ろし、選手と同じ
目線で一緒に「〇〇さん交代」と呼びます。勇気をもらった子どもは元気に
グラウンドに駆け出して行きます。その子が自分一人で交代できるようにな

るまで、何度も呼びかけにつきます。

(実践例 2) ベンチからは、子どもたちのやる気を引き出し、子どもたちが萎縮せず伸び伸びとプレーできるよう「ナイスプレー」「いいぞ」「ドンマイ」などと声かけをします。

(実践例 3) 子どもたちへの声かけは、強制的な指示ではなく、「この場面ではどうするといい？」というような子どもたちがプレーに対して考えるような声かけをします。これらを共有することで、チームのプレーの幅が広がると考えています。

○ 子どもたちが「自分の言葉」で生き生きと話せるよう、応援します。

(実践例 1) 試合終了後、相手チームの選手に試合の感想を、アンパイアーに感謝の言葉を伝える、「相手を讃えるセレモニー」を行います。相手選手がホッケーが上手なら、ホッケー技術のすばらしさを伝え、公平に審判していただいたアンパイアーにも感謝の言葉を述べます。自分の思いを自分の言葉で正しく伝えられるようになります。

(実践例 2) 「相手讃えるセレモニー」では、キャプテンだけでなく、全ての選手が相手チームを讃えます。相手チームの良いところを見つける視点が、自分たちを成長させてくれます。

(実践例 3) 自分たちのプレーや行動に自信が持てるようチームみんなで返事をします。一人だけする返事には、勇気が必要ですが、みんなで一緒にする返事からは勇気をもらうことができます。練習の時だけでなく、外部の方からの励ましの言葉などにも元気に返事をして、チーム全体を盛り上げます。

(実践例 4) 他人を応援することで自分も相手から勇気や感動をもらうことができます。相手を自分の鏡に写して応援できるような指導を心がけます。

(教本 P 9)

(実践例 5) 練習のはじめにその日の当番が「元気に声を出していこう」「精一杯頑張ろう」「笑顔でいこう」などの今日のめあてを伝えます。練習終わりには、選手それぞれが「○○さんの声から元気をもらいました。」「今日は、いつも以上に精一杯走ることができました。」など自分の言葉で振り返ります。

○ いつでも、フェアプレーすることの大切さを伝えます。

(実践例 1) 最後まで、正々堂々とプレーすることが大切です。微妙な判定に足を止めず、次のプレーに集中しましょう。全力で行う良いプレーが、皆の気持ちを一つにしていきます。

(実践例 2) 自分たちは、いつでも『フェアプレー賞』をもらえるんだ。という気持ちで試合に臨んでいます。フェアプレーを積み重ねることで、自分たちの技術

と心が磨かれていきます。

（実践例３）子どもたちはもちろん、指導者も感謝の気持ちを忘れません。選手にはもちろん、相手チーム、育成会などへ気持ちだけでなく、言葉や態度でも表していきます。

J A F サッカーファミリー安全保護宣言

- 1 サッカーにおける暴力・暴言を根絶します。ゼロ・トレランスの実現
- 2 子どもたちをハラスメントから守ります
- 3 子どもたちの健康を守ります。
- 4 良い指導者の養成と有資格指導者を適正に配置します。
- 5 暑熱環境下等でのサッカー環境を改善します。
- 6 年齢・性別・障がい・人権に関係なく、サッカーを楽しめる環境を整備します。